

ごみ減量化の社会実験について

本郷ふれあいセンター長：廣木 俊二

A) ふれあいセンターの役割

- ・社会実験への運転助勢（有償ボランティア派遣：2名／日）
運転時間 平日 8:30～17:00（水曜・日曜は休み）
- ・住民が集まる場所の創設
ごみ無しでも立寄りできる雰囲気作り

B) 社会実験を引き受けた経緯

- 1) 役場から社会実験の話聞く（主に生ごみのバイオマス処理）
⇒興味深いと返答した。
- 2) ほんごう地域づくり委員会で説明し、概ね了承を得た。
⇒ただ、下記の意見が出た。

Q 1 : ごみ出しでは、困っていない。なぜごみをふれあいセンターに持って行くの？めんどくさい。

A 1 : 確かに表面上、問題は無い様に見える。ただ、ごみの全体量は年々増え続け、処理費用が年間3億に接近している。焼却炉も老朽化が進み更新も迫っている。更に二酸化炭素が大量に発生し温暖化を助長し、異常気象が起こり、豪雨豪雪災害が増加。今回の主旨は可燃ごみの中で1/3を占める生ごみを、焼却炉に入れず、実験装置内の微生物の働きにより、メタンガスと液肥に分解する試みの第一歩なのです。同時に資源ごみの細かい分別により、再資源化率を高めます。

Q 2 : 生ごみは畑に埋めたり、コンポスト装置や段ボールコンポストに入れたりして処理しているけど、それではダメなの？

A 2 : それは、目的は同じなので、継続して下さい。ただ、その量は生ごみ全体の1割程度。（残りの9割は焼却していて、その量は年間約1000トン）今回の実験は、各家庭で処理ができない人たちも含め地域住民がふれあいセンターへごみを持参してバイオマス装置へ投入することで、資源化に取り組むことができ、またそうすれば、自ずと人の集まる場所も作れると考えています。

Q 3 : 資源ごみ収集に関して、何時でも持って行けるの？

A 3 : 水曜と日曜の運転休日以外は、8:30~17:00 で受付けます。但し、自分で一個ずつ投入ボックスへ入れて下さい。

C) 運転状況

写真スライド参照

D) 考察

1) 今回の社会実験で気づいたこと

- メタンガスと液肥は、注目度が高い。
- 生ゴミ持参：めんどくさい様子は無さそう。
- 資源ゴミ分別：14品目ではあるが、意外と不満なく実施されている。
- 遠くからの持参者は、今の所、少ない。
- 年配者の中には社会貢献の意識が高い人が多い。
- 主婦に内容をきちんと理解してもらう事が重要。

2) 今後に関して（データを収集中）

- 生ゴミ、資源ゴミ

本郷校区の世帯数：約 1,500 世帯（人口は約 4,500 人）

モニター登録数…約 150 世帯

実際に持参した世帯数…何世帯／週

生ごみ量…平均何 kg／週

資源ごみ量…何 kg／週

- メタンガスの発生に関して

メタンガスの発生量…平均何 m³／月

- 二酸化炭素の削減に関して

削減量：平均何トン／月（推測値）